

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470700356		
法人名	有限会社いのち		
事業所名	グループホームゆかりの里		
所在地 (電話番号)	〒729-2312 竹原市福田町1300-1 (電話)0846-24-1287		
評価機関名	(社)広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】(19年9月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 1,0

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	95,000円	その他の経費(月額)		
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(285000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1ヶ月以内)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84,5歳	最低	66歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ゆかりの里」は、地域で長年に亘り医療面で貢献されている医療機関が母体であり、地域での医療及び福祉介護の核となっており、ホームの開設から現在に至るまで、地域への貢献は地道に取り組み、近隣の人達の訪問も多くあり、また利用者の外出時の声かけや、さりげない見守りなどの協力関係がごく当たり前のこととして出来ている。そして、ホームでは、常日頃から多職種の職員が協同して利用者の生活の支援を行っている。また、喜怒哀楽の共有や一人ひとりの個性も尊重され、このことにより、利用者の方も安心して笑顔のある快適な日々の生活を送られているようであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は特になかったが、更なる向上を目指して全職員は理念を共有・共感しながら日々ケアの向上と、利用者や家族及び地域との信頼を得ながら互いに関係作りに取り組み、利用者の安心につなげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者は、評価に積極的に取り組み、また職員も前向きに取り組みながらサービスの質の確保に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に行なわれており、会議参加者は町内会長・地域包括支援センター・家族代表などで行なわれている。今後は、より多くの方の参加を求めながら多くの異見を率直受けながら、今以上に改善にむけた具体的な取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの運営については、会議録を作成して機会がある毎に家族に報告されているが、このことによって家族から出た意見や要望等については、家族等の立場に立ってミーティングなどで話し合いをし、運営の健全化を目指している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常の散歩や買い物時などには、一人でも多くの方に気軽に地域の住民同士としての挨拶を交わしたりしている。また、地域の方からもさりげない見守りや声かけなどの協力もみられる。更には、地域でのお祭り・盆踊り・町内清掃などにも出来るだけ参加をして、地域との連携を常に図りながら関係づくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、「安心と快適、そして自立と尊厳」を掲げ守りながら、地域で「安らいで、笑顔のひろがる暮らし」を支援の基本として作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、日々のサービスの提供場面において反映されているか、ミーティングや申し送り時などの機会をとらえて振り返りや意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や買い物を通して地域の方と顔馴染になりながら、また地域への配慮を図りながらホームの機能を出るだけ提供し、支え合いの関係作りに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を管理者、職員間でしっかりと共有されており、また自己評価は全職員で行い、そのことにより見い出された課題については改善のための具体案の検討や実践につなげる努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行われており地域に溶け込んだホームとしての位置付けが確保されている。また、会議の内容は家族に報告し、その意見をいただきながらこれからのサービスの向上に活かすよう取り組まれている。今後は、地域の資源の活用と見直しを行い、今以上に幅広い地域の方の参加が得られるような取り組みが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの責任者は、地域ケア会議に出席するなどして情報交換を行い、また行政担当者に対しては普段から情報交換を行いながら連携の強化に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告は、何らかの変化や問題が起きた時に限らず、常にきめ細かく手紙や電話で報告がなされている。また、訪問時には行事の際の写真や、要望があれば介護記録を見ていただく等して様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には、家族の意見・苦情等を聞き、話し合える雰囲気づくりがされており、意見交換しながら運営面に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響は殆どなく、平素より環境の変化により生じる障害行動を起こさないように支援の配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員・現任社員も事業所の内外の研修を受けることが出来るような体制は確保されており、研修報告書も全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修での事例検討会等を通じて、事業所外の人達の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が事業所をまず見学してもらうことから始めるなど、安心してサービスを利用できるよう、相談の時点から利用に至るまで、利用者の視点に立って柔軟に支援をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年長者である利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面や、喜怒哀楽を共にしながら支えあう関係作りに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の暮らしの中で、利用者の希望や意向を会話や表情から把握するよう努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常のケアや支援については、本人や家族からの意見などを反映させながら話し合いを行って、本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>新たな要望や変化が見られない場合でも、常に新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認すると共に、職員の最新の情報や気づきなどを集めて、実情に即した、介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	ご家族のその時々要望に応じては、柔軟な支援を行 う体制づくりに取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医やかかりつけ医への受診や看護師の 訪問看護も行われおり、利用者や家族の希望に応じ ての適切な医療が受けられる支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の意向を尊重しながら、ホームで出来ることなど は医師を中心として職員全員で方針を共有して、支援 を行う体制が取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底 していくために、ミーティングの折などに対応の徹底を 図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは基本的には設けず、利用者の ペースに合わせ一人ひとりの心に寄り添った生活を支 援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣から差し入れられた野菜等の食材でメニューを職員と共に考えて献立に取り入れてたりし、また食事の時間は職員と利用者が語り合いながら楽しい場となるように努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や意向に沿って柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩や買い物に出掛けたり、また自宅が気になる場合の利用者には職員と一緒に帰宅して安心してもらうなどの支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は、鍵をかけることへの弊害を理解している。当ホームは、鍵をかけない方針で見守りや連携プレーに努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行い、これには近隣の方も参加してもらい、この機会などに地域との関係・協力が得られるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の嗜好・食事・水分は把握されており、栄養のバランスも常に意識されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や茶碗を洗う音など、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して寝具・写真等の馴染みの品を揃えるなどして、本人が安心して居心地よく過ごせる工夫が伺える。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ゆかりの里

評価年月日 19 年 9 月 1 日

記入年月日 19 年 9 月 20 日

記入者 職 ホーム長 氏名 堂前 可子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・地域に根ざしたホーム ・交流を大切にし、社会とつながりのある生活を提供する。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	人の輪、人を大切にするホームをめざしている。 あいさつ、笑顔、やさしさ、親切、をモットーとしている。日々のミーティングでケアの大切なこと、目標を話題にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	自治会にはいているので会合に出席したり、地域の行事に参加してホームの理解をしてもらうようにはたらきかけている。		地域にむけて説明会話す機会をもつようにする。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事に参加を呼びかけ一緒に楽しんでいる。顔馴染みになって散歩の途中声を掛け合っている。 鍵をかけていないため気軽に出入りがある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の会合、行事、地域行事のサロン等に参加して交流をもっている。 日頃挨拶や、回覧板をまわし馴染みになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			地域の認知症高齢者や家族が、安心して暮らしていけるようには取り組みは考えている。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。			自らのサービスの質の改善を常に図り意識づけをしていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回目 ゆかりの里の運営方針、理念の説明 ゆかりの里の現況 2回目 メンバーが新しい方のため1回目とほぼ同じ内容 行政の方にグループホームを理解してもらう。		意見をどんどんもらってサービスにつなげていく。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議に出席して情報交換をしている。 勉強会で知識をたかめている。 行政担当者に普段から来てもらえるように働きかけている。		行政担当者に普段から来てもらえるように働きかける。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			当たり前の生活が継続できるように支援するために、何が権利侵害になりやすいのか何を擁護していくのか、しっかり勉強する必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			啓発ツールを作成し日常ケアの基本にそって支援できているか振り返り活用していく。
4 理念を実践するための体制				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族 利用者と十分話し合いをしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	毎月の会議には、利用者参加でするためその都度いろんな意見が出る。しっかり傾聴して解決している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一ヶ月間の様子、金銭の収支 行事等詳しく書いて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情については、言えない苦情は苦情申立書があり文書提出も可能。重要事項に記載してある。		苦情については、家族の立場にたつて納得の行く対応をしていく。 苦情が出た場合、その苦情の要因を探り反省材料にいかす。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議や日々いつでも聞く機会、姿勢は持っている。 職員が、自由に意見が言える雰囲気がつくられている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	竹原市シルバー人材センターにお願いし必要な時間帯に勤務できる話し合いをしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者は、環境の変化がもたらす影響が障害行動になりやすいため、最小限を思つて自然に交っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

5 人材の育成と支援

19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。	認知症介護実務者研修基礎課程を受ける、研修参加の機会をもうけている。 研修の報告会や話し合いをしている。		・それぞれにあった研修の取り組みをする。 ・年間計画をたて意義や目的をしっかりとって取り組んでいく。 ・
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県内グループホーム協会の交流や、研修会に参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	毎年映画鑑賞、行楽地へ日帰り旅行等入居者と一緒に、親睦を兼ねて行っている。 会社の好意で職員同士で食事会をしている。		親睦や気晴らしの機会をつくる。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	慰労の気持ちを常に表してもらっている。		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	しっかり時間をもって傾聴している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	その人を理解するために、しっかり時間を取り傾聴している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族が納得されるまで待つ気持ちで接している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさをしるために一緒に過ごす時間をもち、寄り添うことによりお互いの存在を認めあい信頼関係をつくる。		共有する時間を丁寧につくる。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	相談したり、状況を報告して一緒に考えたり支えたりしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	食事中に訪問があるときに一緒に食べてもらったり、宿泊してもらおうようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			本人の馴染みの環境、関係、生活を探り整えていく必要がある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	おやつ、食事等ゆっくりする時間は、性格、関係性を把握して机の並びに配慮している。		一人一人の個性を見抜き、間に立ち円滑に日常生活が出来るように努めることが必要。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係性を維持していく。		関係性を維持し、今後介護保険サービスの利用について、家族、本人に助言できるように努める。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向を把握し円滑に過ごしてもらうようにしている。		本人の生活歴を家族から情報を得る。馴染みの人の発掘。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人から生活歴、心身の状態を聞いて把握する。		これまでの暮らしの中で本人が接してきた馴染みの人をたくさん見出していく必要がある。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来る能力を見極め、役割をみつけ、役立っているという思いを常に持ってもらう。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人 家族の、思いを一番に取り入れている。スタッフ間で情報を共有して必要なケアを計画にいかし日々の支援の目標にしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	問題が発生した時は、その都度カンファレンスをし、その人にとってより良いケアにつなげている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送り時1日にあったことを掘り下げて報告することにより、スタッフ間の共通認識として深め実践や見直しに役立っている。		介護計画にそって実践されたか、それでどうなったかの評価をしていきたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			予定をしている。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	それぞれの役割で協力があり支援してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			必要があればしていく気持ちはある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	母体が医療機関であり、院長の往診がある。 入居者の掛かりつけ医とも、気軽に相談できている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関する診断や治療、対処方法等支援できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体が医療機関である。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が長くなり認知症状がひどいため早期退院した時、病院関係者と常に連携を取り乗り越えた経験がある、		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	事前にアンケート用紙で看取りの場について解答をもらっている。看取りの段階になった時は、院長を中心にしっかり話し合っている。		その都度勉強が必要。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	要望があり取り組んできた。		入居者のニーズがある以上支援していく必要がある。それに合わせて職員の教育が必要。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。			十分情報を伝え、支援していく。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。			入居者、家族の安心を提供していることを、日常ケアで意識をたかめていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	理念、方針である。 ゆとりの介護、入居者に合わせた支援をこころがけている。		業務優先にならないようにいつも意識をもつ。 家族から本人の嗜好や関心ごと、希望を聞くようにする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理念、方針である。 スケジュールがなく一人ひとりに合わせた支援をする努力をしている。		常に気づき意識する。 引継ぎや業務が集中する時間に不安や混乱が起きやすいためこのとき入居者のペースに添えるよう工夫がいる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で選んでもらうように支援している。 入居者と相談して美容師に来て貰っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	運営方針である。 常に一緒に食事の準備、片付けをしているし、一緒に食事をしている。		無理強いににならないように声を掛けることが課題である。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	取り入れている。 安全に配慮してタバコを吸っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツに頼らず昼間は布パンツで過ごす。 できるだけトイレで排泄してもらう。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々の生活に合わせて入浴してもらっている。夏場の散歩の後、活動して汗をかいたとき入浴の声を掛けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	室温に気をつけ安眠できるように配慮している。 一人ひとりの心身の状態にあわせて休んでもらう。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	能力に応じた役割を見出し、楽しみを持って力を発揮できるように支援している。		やられるという思いにならないように常に意識が必要。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとり能力に応じて支援している。保育園のバザーには自分で支払いをしてもらう。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩、ドライブなんらかのかたちで外出支援をしている。帰りたい気持ちの方には、思いに寄り添い車で家まで帰ってもらうこともある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	映画館 回転寿司に出かけた。 海辺の別荘で過ごす。 バス旅行毎年計画がある。 外出で四季の変化を体感している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分で電話をかける能力のある方はかけてもらう。 能力に応じて支援して家族と話してもらう。 年賀状は、毎年声かけ支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	おもてなしには、十分配慮している。入居者の方がお茶をいれおもてなしをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって入居者が受ける精神的ダメージについて認識して拘束のないケアを目指している。		入居者一人ひとりの普通の生活を守るため「なぜこの人にこのようにするのか」自分に問いかけ意識して取り組む訓練を常に持つ必要があり、勉強会を行う。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけないことがホームの方針である。安全を守るためチャイムをつけて出かける気配に気づく工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	いつも所在確認を個々で意識することを合言葉に努めている。業務をしながらも入居者の動きやサインを察知できる訓練をすることも必要。		業務をしながらも入居者の動きや
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	家族とも話し合い、刃物は管理している。		定期的に部屋担当が点検することを心がける。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年1回消防署より火災訓練を近所のかたも交えて全員参加で実施している。十分とは言えないので常に危機感をもっている。		年にもっと訓練の回数を増やし徹底していく。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	年1回の火災訓練時に救急救命の心肺蘇生法を全員体験している。AEDを用いた心肺蘇生法の説明を受けた。今年は普通救命講習会に参加した。十分とは言えないので常に危機感をもっている。		みんなであわてないように日ごろの訓練も必要。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホーム内の火災訓練に近所の方も参加してもらい日ごろより協力の声かけをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	自由と危険は隣り合わせなので常に家族と相談しているが、これでよしということは無いと思う。		常に意識していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルのとき、朝の健康チェック時しっかり観察をしている。異変時は院長に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人差がある。 薬の服用で変化がある場合は、医師に連絡している。		常に薬の重要性、危機を理解すること、勉強会の機会を持つ。 薬の内容を全員が把握できる工夫が必要。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	しっかり食べて、睡眠を十分とって、しっかり動くことをモットーにして日々過ごして自然排便を促すようにしている。1日の水分量、活動、食事量に配慮している。		繊維を多く持つ食べ物にも日ごろ気づき料理に使う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	能力のある方には、声掛けをしている。 毎食後、能力に応じ支援して清潔を保っている。 隔月に歯科衛生士の指導を受けている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分量を記録している。 食事は、動物性蛋白質と野菜を常に摂っているが、栄養のバランスは常に意識が必要。 食欲の無い時は、食べられるもの、好きなもので対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	常に意識している。 手すり ドアノブ 机 椅子を次亜塩素酸ナトリウム希釈液で毎日拭いている。 外出から帰った時の手洗い うがいの励行。		マンネリ化しないように常に危機感をもつ。 定期的に学習や、訓練が必要。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。			見直す必要がある。食材の整理 管理 残ったものの管理、日にちを書く。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープがありバリアフリーになっている。 不要の段差が無い		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	殺風景でなく、ほっと安らげるようにいつも花があり家庭的な空間づくりに心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファのコーナー、畳のコーナー、テーブルとそれぞれ居場所があり、日々その時々に合わせて過ごされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、寝具、写真、これまで使用していたもの、思い出のものが、持ち込まれている。植木鉢、花など飾って楽しんでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暑さ、寒さが感じにくいよう、部屋に温度計を置いて室温の管理をし、居心地よく過ごしてもらうようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の現状に合わせて、環境の改善に取り組んでいる。特にトイレ、風呂場は、要所にきめ細かく手すりが配置してある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間金魚鉢のモーターの音、光が気になる入居者がいるため、コンセントを抜いたり、光に布を被せて対策をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	植え込み、菜園、プランタの花があるので、手入れをしたり、水遣りの仕事がある。		